

〔書言字考節用集五〕肢體。〔キシタ〕丸。陰囊丸也。核

〔倭名類聚抄三〕垂。陰囊。針灸經云、陰囊俗云布久利、其義見病類陰類下。大素經云、天有十日、人手有十指、辰有十二、

足有十指、莖垂之二、以應之。今案莖者玉莖、垂者陰囊也。女子有陰、而不足二節、故得懷子也。

〔箋注倭名類聚抄二〕垂。按陰囊出千金方及醫心方所引葛氏方醫門方玉房秘決、醫心方同訓、按不

俱利之名、見鐵槌傳、宇治拾遺、又按陰類條不釋其義、此所謂未詳。中按張介賓類經、莖者宗筋也、

垂者辜丸也、與源君所釋合。略中按靈樞邪客篇、天有十日、人有手十指、辰有十二、人有足十指、莖垂

以應之、女子不足二節、以抱人形、其所言略同。

〔類聚名義抄六〕陰囊 フクリ

〔伊呂波字類抄不〕陰囊 フクリ 囊 鬮 屎風 莖 垂 屈 脹 腹 瘰已上同

〔增補下學集上〕陰囊 フクリ

〔松屋筆記百〕松 ふぐり 陰囊

新撰犬筑波春部に、春風にぶらめき渡る松ふぐり、同冬發句部に、霜風にふるひおとすや松ふぐり、同雜部に、山に千年川に千年、ふぐりまでうしほにうつる峰の松、又まつふぐりとや人はいふらん、住吉の岸によりたる蛸を見て、又ふぐりのあたりよくぞあらはん、むかしより玉みが、ざれば光りなし、又手綱もか、ぬ高砂の浦、しほ風にぶらめきわたる松ふぐり、按に松ふぐりは、松實にて、其形陰囊にも似たれば、いふ歟、和名抄莖垂類部に、針灸經云、陰囊、俗云布久利云々、またはかりの鍾有、

〔倭名類聚抄三〕莖垂。玉門。房內經云、玉門名也。楊氏漢語抄云、屎通鼻、今案俗人、或云朱門、並未詳。

〔箋注倭名類聚抄二〕莖垂。按謂女陰爲玉門、見外臺秘要引素女經、及病源候論婦人帶下候。中各本

屎作屎、按新撰字鏡云、屎音朱、久保、久保亦女陰之名、見日本靈異記訓釋、則屎爲屎字之譌、無疑、今